

日本体育大学紀要 11 号 (1982) 1-12

球技の戦術体系に関する研究

稲垣 安二*

(昭和 56 年 12 月 1 日受付)

A Study on Tactic Systems of Ball Games

By Yasuji INAGAKI

The purpose of this study is to generalize the tactic systems of offense and defense in basketball games into tactic systems of ball games in general. Following is the result of study.

1) This study cleared up three systems of fundamental movement pattern and specific tactics in tactic systems of offense of basketball games. Further a general method of offense and a special one in ball games are added to the previous study of tactics systems of ball games reported in the Bulletin of Nippon College of Health and Physical Education Number 6.

2) Because of essential quality of ball games and dribble, which ranges from gradual increase to gradual decrease by offensive movement of ball games, three systems of offense can develop in order of "Man ahead of the ball systems", "Dribble systems", and "Ball ahead of the man systems".

3) This study accounts for the co-operation and specific tactic of defense in tactic systems of defense of basketball games, further general and specific methods of defense in ball games are added to the tactic systems of defense of basketball games.

I. はじめに

ここで言う球技とは、ゴール型球技とネット型球技のバレーボールのことであるが、考察する対象の多くは、ゴール型球技である。

小論は、筆者の日本体育大学紀要（以下、日体大紀要と略称する）、第6号に発表している「球技における戦術体系の一考察」の1部が、筆者のその後の、スポーツ競争の戦術に関する一試論³⁾、球技の分類²⁾、球技の攻撃、防御の基本的な方法⁴⁾、球技戦術論⁵⁾等の研究によって、修正、追加の必要性をきたすとともに、攻撃の戦術体系についてもさらに掘り下げた研究の必要をきたしたので、あらためて、球技におけるバスケットボールの攻撃の戦術体系を、バスケットボールの攻撃の特殊戦術体系（後述）に修正し、再考察した結果ならびに、日体大紀要、第6号には発表していない防御の特殊戦術体系について、考察した結果の報告である。

II. 球技における攻撃、防御の戦術体系

A. 球技における攻撃の戦術体系

1. バスケットボールの攻撃の特殊戦術体系

(1) 攻撃の特殊戦術体系図

第1図は、筆者のバスケットボールの攻撃の特殊戦術体系図である。この図は、日体大紀要、第6号に発表している「球技における戦術体系の一考察」の攻撃の戦術体系図¹⁾と比較し、主な用語や内容の修正、あらたに明確になった事項の追加等をあげるとつぎのようである。

① バスケットボールの本質的な特性としてとらえた「対人下におけるシュートに結びつく連けい的な戦術」を、「対峙下において、対峙を打破し、シュートに結びつける連けい的な特殊戦術⁵⁾とその防御の特殊戦術⁵⁾」に修正した、(内容は変らない、表現の修正)。

② すべての球技に共通な戦術は、一般戦術、個々の球技種目の戦術は、特殊戦術といわれるので⁵⁾、バスケットボールの攻撃の戦術ならびに戦術体系の名称を、攻撃の特殊戦術ならびに特殊戦術体系に修正した。

* 球技 I 研究室



図 1 バスケットボールにおける攻撃の特殊戦術体系 (図)
 <攻撃の特殊戦術体系—(2)>

③ 球技の攻撃の一般的な方法と特殊な方法⁴⁾、ならびに、攻撃の一系列（後述）として、ドリブルスクリーン系を加えた。

④ 3系統の基本的な行動形態を位置づけた。また、ドリブル系統と、ボール・アヘッド・オブ・ザ・マン系統の位置づけを代えた。

⑤ ボール保持者（ボール操作者ともいう）とこれにかかわる味方攻撃者（味方競技者ともいう）の行動を視点にして、3つの基本的な行動形態に基づく3系統を明らかにした。

⑥ 3つの基本的な行動形態の順次性の考察によって、3系統の展開の順次性を明らかにし位置づけた。

上記の中、①、②、③は既に日体大紀要等に発表しているので、小論で考察する項目は主として④、⑤、⑥である。

(2) 攻撃の基本的な行動形態とそれに基づく3系統特殊戦術は、個人的特殊戦術、集団的特殊戦術によって構成されるが、小論における特殊戦術とは、それらの各特殊戦術の総体のことである。また、特定な特殊戦術とは、個人的特殊戦術、集団的特殊戦術のそれぞれの特殊戦術のことである。

バスケットボールの各種の攻撃行動は、ゴールからの距離の遠近を視点にし、ゴールより離れた位置の空間からゴールへ近づく特殊戦術と、ゴール近くの位置の空間からの特殊戦術に分類される。そして、ゴールより離れた位置の空間からゴールへ近づく特殊戦術については、ボール保持者の行動と、ボールを保持しない攻撃者の行動を前提にし、集団的スポーツ⁵⁾における集団の構成的な基本単位と競争形態の単純化によってとらえられる「ボール保持者とこれにかかわる味方攻撃者の両行動」を視点にすると、行動の基本構造をそれぞれ異にする3つの基本的な行動形態がとらえられる。さらに、3つの基本的な行動形態は、その上に、特定な特殊戦術を系統的にとらえることができるので、3つの基本的な行動形態と特定な特殊戦術による統一された全体を、「3系統」と呼称できよう。また、3系統に位置づけられたそれぞれの特定な特殊戦術を、3系統のなかの「系列または系」と仮称する。

以下に述べる3系統とその基本的な行動形態の構造、3系統の各系列の種類については、日体大紀要、第6号に発表した内容と1部重複することをお断りする。

i. 3系統とその基本的な行動形態

① マン・アヘッド・オブ・ザ・ボール (Man ahead of the ball) 系統

この系統の基本的な行動形態の基本構造は、ボールを保持しない攻撃者が、相手との対峙を打破し、ボール保持者に先行してボールを受ける行動形態であるが、さらに、相手との対峙を打破し、単にボール保持者よりも離れてボールを受ける行動形態も含まれる。この基本的な行動形態は、第2図に示している。このような基本的な行動形態の系統を、マン・アヘッド・オブ・ザ・ボール（以下、マン・アヘッドと略称）系統と仮称する。

② ボール・アヘッド・オブ・ザ・マン (Ball ahead of the man) 系統

この系統の基本的な行動形態は、ボールを保持しない味方攻撃者が、自分の相手との対峙を打破し、先行しているボール保持者に近づきボールを受ける行動形態である。これは、第3図に示している。このような基本的な行動形態の系統を、ボール・アヘッド・オブ・ザ・マン（以下、ボール・アヘッドと略称）系統と仮称する。

③ ドリブル (Dribble) 系統

この系統の基本的な行動形態は、ボール保持者が、相手との対峙の打破を試みながらドリブルしたり、また、ボール保持者が、相手との対峙を打破した後、ドリブルを試行し、味方攻撃者がドリブラーをフォローする行動形態である。これは、第4図に示している。このような基本的な行動形態の系統をドリブル系統と仮称する。

ii. 3系統の各系列の特定な特殊戦術

①マン・アヘッド系統には、カットイン系を初めとする3系列、②ボール・アヘッド系統には、ポストとカットインの併用系を初めとする3系列、③ドリブル系統には、ドリブルイン系を初めとする2系列の各系統の特定な特殊戦術がみられる。

なお、ボール・アヘッド系統とドリブル系統の中間形態（両系統の基本的な行動形態の一部をそなえている行動形態）の1系列として、ドリブルスクリーン系の特定な特殊戦術がみられる。

(3) 攻撃の特殊戦術体系における3系統の展開の順次性

攻撃の特殊戦術体系における3系統の展開の順次性とは、ゴールより離れた位置の空間からゴールへ近づく特殊戦術にみられるマン・アヘッド系統、ボール・アヘッド系統、ドリブル系統の3系統を対象にし、これらを総体的にとらえ、3系統のなかの各系統の基本的な行動形態や各系統の各系列である特定な特殊戦術の展開の順次性を、系統的に明らかにすることである。すなわち、3系統のなか、いずれの系統の基本的な行動形態や特定な特殊戦術が最初に試行され、また、最後に試行される

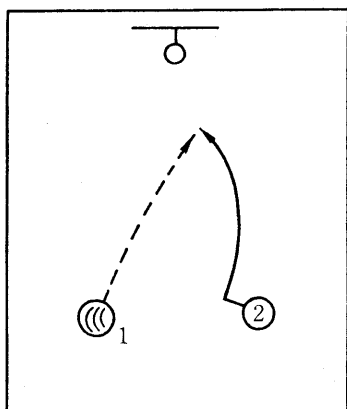


図 2 マン・アヘッド系統

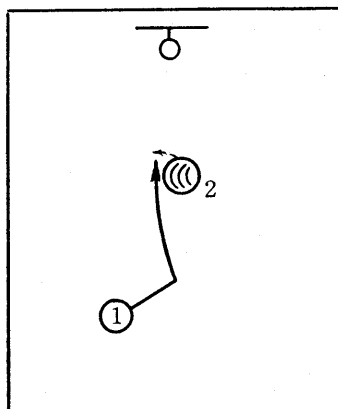


図 3 ボール・アヘッド系統

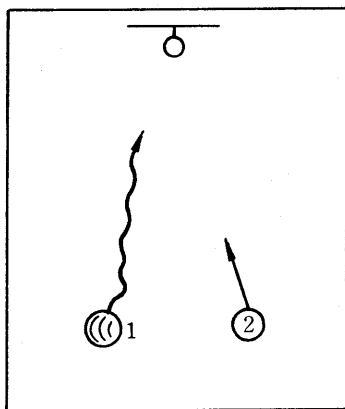


図 4 ドリブル系統

記号の説明

- | | |
|--|------------------|
| | ボール保持者 |
| | ボールを保持しない
攻撃者 |
| | 攻撃者の動き |
| | パス |
| | ドリブル |

か、試行の順次性を系統的に明らかにすることである。

このことは、バスケットボールの攻撃法の指導の実際と直接に関連し、バスケットボールの指導過程の編成や、特定な特殊戦術の指導における基礎的な知識や指標になるので、極めて重要になる。

ところで、ゲームにおける3系統の実際について、第2回関東男子学生バスケットボール王座決定戦の4試合をフィルムにおさめ観察すると(本紀要稲垣他著、バスケットボールの攻撃の特殊戦術に関する研究の資料による)、3系統の各系列である特定な特殊戦術は、いずれも個別的に、ゴールより離れた位置の空間からの「シュート」に結びつけられる場合も多くみられ、また、3系統のなかの2系統の系列の特定な特殊戦術、あるいは、3系統の特定な特殊戦術を、相手に応じ、それぞれ、1、

2連合させ、シュートに結びつけられる場合もみられるが、3系統の各系列の特定な特殊戦術のすべてを連合させ、「シュート」に結びつけられる場合は殆んどみられない。しかし、バスケットボールにおける攻撃の3系統や3系統の各系列の特定な特殊戦術を系統的にとらえ、攻撃の特殊戦術の体系化を志向することは、バスケットボールの攻撃の特殊戦術を明確にとらえ、特定な特殊戦術の高度化に極めて重要であるように考えられる。このことは、3系統のなかの2系統の各系列の特定な特殊戦術、3系統のなかの各系列の特定な特殊戦術の総体について、展開の順次性を明らかにすることである。

3系統や3系統の各系列の特定な特殊戦術の順次性を系統的に明らかにするには、3系統のなかにおいて、1系統を1系列、あるいは、1系統を2系列、3系列の特定な特殊戦術によって構成されている系統など、各系統のなかの各系列が一樣でなく、各系列の特定な特殊戦術

の順次性が複雑多岐になり、系統的にとらえることが容易でないので、ここでは、比較的容易にとらえられる3系統の基本的な行動形態を考察の対象にした。

(4) 攻撃の特殊戦術体系における各系統の展開とそれらの基本的な行動形態

攻撃の特殊戦術体系における各系統の展開では、バスケットボールの競争形態が、基本的に、相手との対峙下において、相手との対峙を打破し、ボールを受け、また、ボールを進めるといった競技の特性によって、ボール・アヘッド系統は、最初に試行される系統としてはとらえられない。すなわち、ボール・アヘッド系統の基本的な行動形態は、ボール保持者に先行した攻撃者が、ボール保持者よりボールを受けた後、または、ボール保持者がドリブルを終了した後に試行される基本的な行動形態である。

したがって、攻撃の特殊戦術体系における各系統の展開の初めは、マン・アヘッド系統とドリブル系統の両系統になり、それらは、以後の各系統の組合せによって、マン・アヘッド系統を初めとする2展開、ドリブル系統を初めとする2展開の計4展開になる。

① マン・アヘッド系統より始め、ボール・アヘッド系統へ、ついで、ドリブル系統へ移行し、シュートに結びつける。この展開を、攻撃の特殊戦術体系(1)と仮称し、第5図はその略図である。

攻撃の特殊戦術体系(1)における3系統の基本的な行動形態は、第6図に示している、この展開は、ボールを保持していない攻撃者が、相手との対峙を打破し、相手を弱点のある状態にして、ボールに先行しボールを受ける(1)、その地点でシュートできないので、味方攻撃者が相手との対峙を打破し、ボール保持者に近づきボールを受ける(2)、ボール保持者がその地点でシュートできないのでドリブルインし(3)、シュートする行動形態である。

ゴールより離れた位置の空間からゴールへ近づく各系統の各行動を、ゴール近くの位置の空間からのシュートに結びつけ、シュートを試行する行動形態は、球技の攻撃を構成する3つの運動技術⁴⁾を試行するので、とくに、この行動形態のことを、**攻撃形態**(傍点は筆者)と呼称することができる。

② マン・アヘッド系統より始め、ドリブル系統へ、ついで、ボール・アヘッド系統へ移行し、シュートに結びつける。この展開を、攻撃の特殊戦術体系(2)と仮称する。そして、第1図はこれを示す。

攻撃の特殊戦術体系(2)における3系統の基本的な

行動形態は、第7図に示す。これは、まず、ボールを保持していない攻撃者が、相手との対峙を打破し、ボールに先行してボールを受け(1)、その地点でシュートできないので、ドリブルで前進しストップする(2)、しかし、その地点でもシュートできないので、ボールを保持しない味方攻撃者が、相手との対峙を打破し、ボール保持者に近づきボールを受け(3)、シュートする攻撃形態である。

③ ドリブル系統より始め、マン・アヘッド系統へ、ついで、ボール・アヘッド系統へ移行し、シュートに結びつける。この展開を、攻撃の特殊戦術体系(3)と仮称し、第8図はその略図である、攻撃の特殊戦術体系(3)における3系統の基本的な行動形態を第9図に示す。この展開は、まず、ボール保持者がドリブルを試行し、ストップ後(1)、その地点でシュートできないので、ボールを保持しない味方攻撃者が、相手との対峙を打破しボール保持者に先行しボールを受ける(2)、その地点でシュートできないので、ボールをパスした攻撃者が、相手との対峙を打破し、ボール保持者に近づきボールを受け(3)、シュートする攻撃形態である。

④ ドリブル系統より始め、ボール・アヘッド系統へ、ついで、マン・アヘッド系統へ移行し、シュートに結びつける。この展開を、攻撃の特殊戦術体系(4)と仮称する。攻撃の特殊戦術体系(4)における3系統の基本的な行動形態をみると、まず、ボール保持者がドリブルで前進しストップ後、その地点でシュートできないので、ついで、ボールを保持しない味方攻撃者が、相手との対峙を打破し、ボール保持者に近づきボールを受けるが、その地点でシュートできないので、パスした攻撃者は、さらに、ボール保持者に先行してボールを受けシュートする攻撃形態である。

(5) 攻撃の特殊戦術体系における各系統の展開とその基本的な行動形態の考察

i. 考察の視点

攻撃の特殊戦術体系における各系統は、バスケットボールの本質的な特性に基づいてとらえられ、また、ルールに基づいた運動技術によって、ゴールより離れた位置の空間からゴール近くへ展開されるので、これらのことを前提にすると、考察の視点は、基本的につぎの2つになろう。

① バスケットボールの本質的な特性

これは、既述のように、「対峙下において、対峙を打破し、シュートに結びつける連けい的な特殊戦術とその防御の特殊戦術」としてとらえられるが、このなか、対

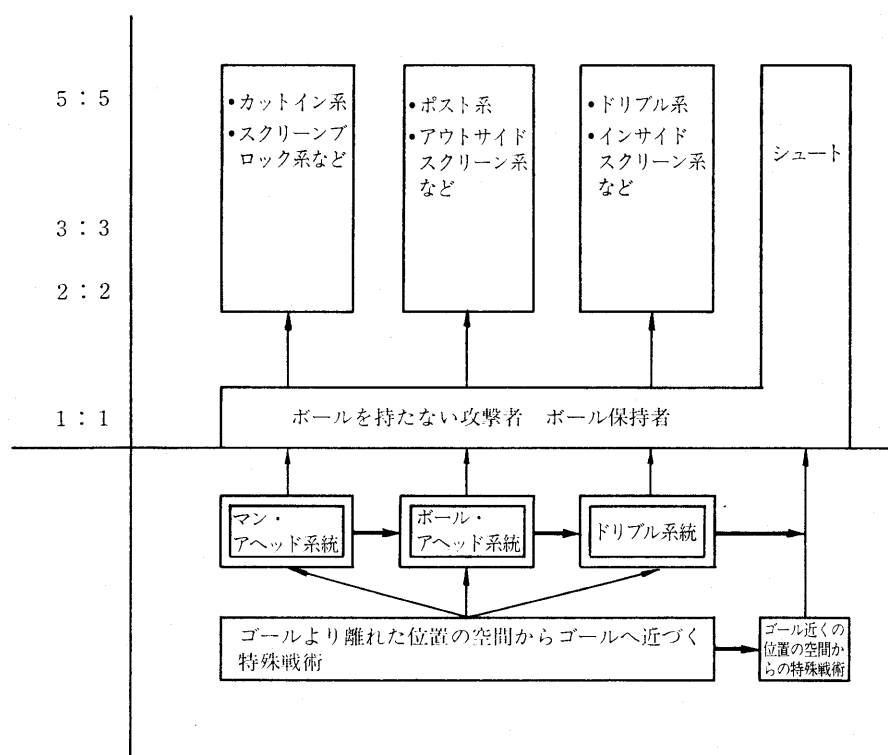


図 5 攻撃の特殊戦術体系一(1)の略図

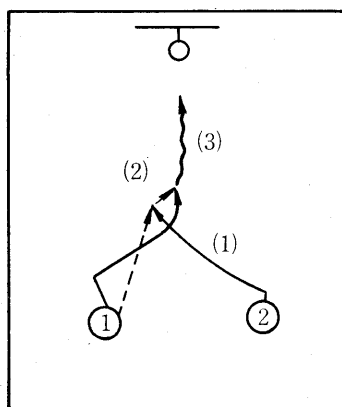


図 6 攻撃の特殊戦術体系一(1)の基本的な行動形態

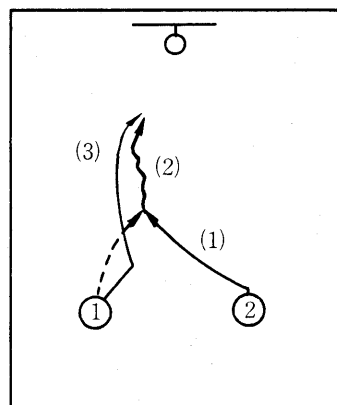


図 7 攻撃の特殊戦術体系一(2)の基本的な行動形態

峙下において、対峙を打破し、シュートに結びつける連
けい的な特殊戦術は、バスケットボールの攻撃の特殊戦
術の体系化において、原理、原則になる。したがって、
攻撃の特殊戦術体系の展開においても、原理、原則とし
てとらえることが必要になるので、考察の1つの視点に

なる。

② 攻撃行動の漸増的、漸減的な順次性に基づく展開
における「ドリブル」について

一般的に、攻撃行動における攻撃者は、まず、相手と
の対峙を打破し、味方からボールを受け、その場であら

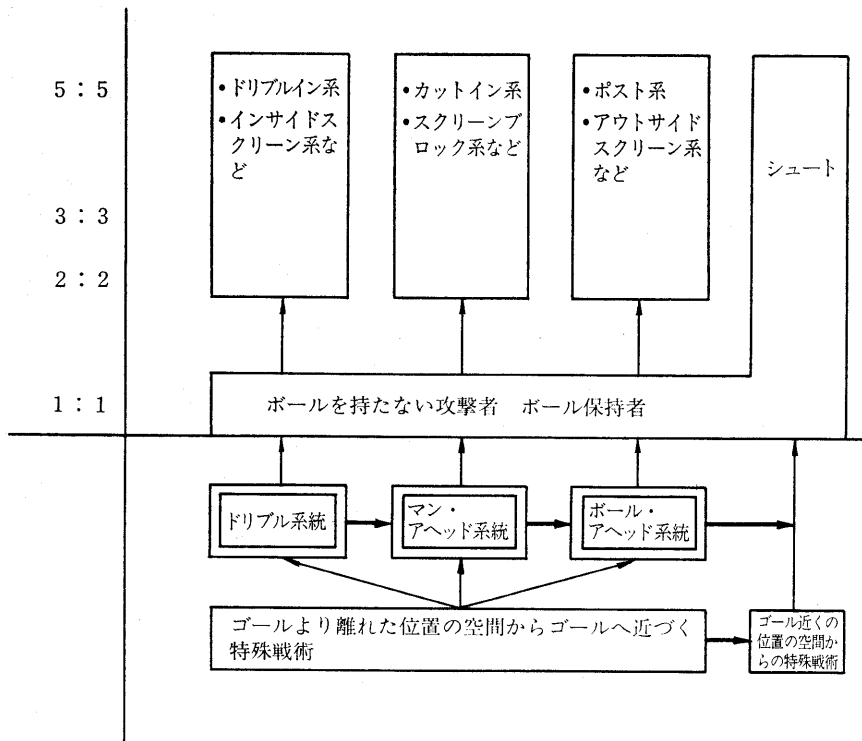


図 8 攻撃の特殊戦術体系(3)の略図

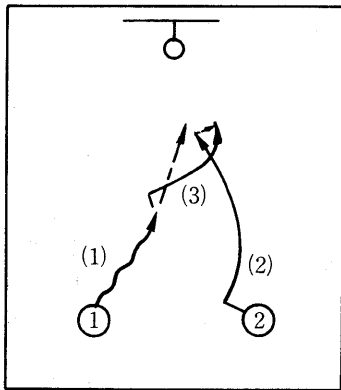


図 9 攻撃の特殊戦術体系(3)の基本的な行動形態

ゆる運動技術に先だって、シュートを試行するが、対峙を打破した相手等に、再び対峙され、その場でシュートのできない場合には、フェイントやドリブルを使用し、相手との対峙の打破を試行しシュートに結びつけている。換言すると、攻撃者がボールの保持後、シュートの不可能な場合には、ドリブル等で1対1より1対0を試

行し、シュートに結びつけている。しかし、相手の防御力が強く、容易に相手を弱点のある状態にすることが不可能な場合には、つぎに、味方の攻撃者が、自分の相手との対峙を打破し、ボール保持者の防御者を、ボール保持者と協応し、2対1の弱点のある状態につくり、シュートを試行するが、相手を弱点のある状態にできない場合には、さらに、他の味方攻撃者が、自分の相手との対峙を打破し、この攻撃に加わり、3対2をつくりシュートを試行している。このことは逆に、3対2の状態をつくることの不可能な場合、それより、2対1、1対0の相手を弱点のある状態につくり、シュートに結びつけることになる。これは、攻撃行動の漸増的、漸減的な順次性に基づく展開である。換言すると、これは、個人的戦術を各集団の戦術の中に系統的に生かす方法で、これからのバスケットボールの攻撃行動の展開における原則的な方法と考えられる。

要するに、攻撃行動の漸増的、漸減的な順次性に基づく展開では、まず、ボール保持者がその場でシュートを試行するが、それが不可能で、しかも、他の味方攻撃者が、相手との対峙を打破していない場合には、ボール保

持者は、他の味方攻撃者に先行し、フェイントやドリブルを使用し、相手との対峙の打破を試行するが、これが不可能な場合には、次に、味方攻撃者の協応によって2対1をつくりパスを使用するので、この展開では、ドリブルの使用をパスの使用に先行させて位置づけ、これを考察の1つの視点にする。

考察の視点①と②をみるに、①は、バスケットボールの本質的な特性であり、②は、ボールを保持後の攻撃行動になるので、考察の視点①を、視点②より優位に位置づける。

ii. 攻撃の特殊戦術体系の4展開における3系統の基本的な行動形態の考察

攻撃の特殊戦術体系—(1)から(4)までの4展開における3系統の基本的な行動形態を、前記の考察の視点①に基づいて考察するに、最初にとらえられる基本的な行動形態は、相手との対峙を打破し、ボール保持者に先行してボールを受け、これをシュートに結びつけるマン・アヘッド系統になる。つまり、マン・アヘッド系統の基本的な行動形態は、他の2系統のそれらと比較し、もっとも、バスケットボールの本質的な特性に基づく基本的な行動形態になろう。

マン・アヘッド系統の基本的な行動形態によって始められる攻撃の特殊戦術体系の展開は、攻撃の特殊戦術体系—(1)、(2)になる。したがって、ボールを保持後、ドリブルで始められる攻撃の特殊戦術体系—(3)、(4)は、考察の対象より削除されよう。

相手との対峙を打破し、ボールを保持後、その場でシュートできない場合に、次に試行される系統の基本的な行動形態は、ボール・アヘッド系統とドリブル系統の基本的な行動形態になる。これらの両系統について、考察の視点②に基づき、いずれの系統を試行するかを考察すると、ドリブルによって相手との対峙の打破を試行するドリブル系統の基本的な行動形態になろう。したがって、ボール・アヘッド系統の基本的な行動形態は、最後にとらえられる系統の基本的な行動形態になろう。つまり、攻撃の特殊戦術体系の4展開では、最初に、マン・アヘッド系統、ついで、ドリブル系統、次に、ボール・アヘッド系統の各基本的な行動形態による順次性に基づく展開、すなわち、攻撃の特殊戦術体系—(2)が、攻撃の特殊戦術体系の系統的な展開と考えられる。

2. 他の球技種目の攻撃の特殊戦術体系の思索

(1) 他のゴール型球技の各種目

他のゴール型球技における各種目の本質的な特性は、バスケットボールの本質的な特性と共通にとらえること

もでき¹⁾、また、特殊目標(数えられる成果の獲得)も、バスケットボールのそれと共通にとらえられ²⁾、攻撃の各種の方法は、球技における攻撃の基本的な方法に基づき、各種目の攻撃法を種類としてとらえることも、バスケットボールと共通にとらえられる³⁾。さらに、他のゴール型球技における各種目の特殊戦術は、たとえば、ハンドボールのように、ゴールエリア近くの特な特殊戦術が多いようにみられるが、基本的には、ゴールより離れた位置の空間からゴールへ近づく特殊戦術と、ゴール近くの位置の空間からの特殊戦術に分類できる。

さらに、ゴールより離れた位置の空間からゴールへ近づく特殊戦術には、「ボール保持者とこれにかかわる味方攻撃者」を視点にすると、行動の基本構造の異なる3つの基本的な行動形態を基礎にするマン・アヘッド系統、ドリブル系統、ボール・アヘッド系統の3系統をとらえることができる。

したがって、基本的には、バスケットボールの攻撃の特殊戦術の分類と共通にとらえられ、バスケットボールのそれと一般化が可能になるように考えられる。

しかし、他のゴール型球技における各種目には、ボールの操作法や得点する方法、ゴールエリアが規定されている等、バスケットボールの競技の方法と異なるところもみとめられるので、バスケットボールの攻撃の特殊戦術体系を構成する3系統の各系列の特な特殊戦術のすべてが、他のゴール型球技の各種目のそれらに、そのまま、適用できるとも考えられない。

すなわち、他のゴール型球技の各種目における各系列の特な特殊戦術の細部については、他のゴール型球技の各種目のボール操作法等に基づく、特殊にして、個別化されたものもみとめられよう。

(2) ネット型球技バレーボール

ネット型球技バレーボールの本質的な特性は、バスケットボールの本質的な特性と共通にとらえることもでき¹⁾、バレーボールの特殊目標は、バスケットボールの特殊目標と共通にとらえられる²⁾。

また、バレーボールの攻撃の方法は、球技の攻撃の基本的な方法に基づき、バレーボールの攻撃法を種類としてとらえられることも、バスケットボールと共通である³⁾。

さらに、バレーボールの特殊戦術は、バスケットボールの特殊戦術が、ゴールからの距離の遠近に基づいてとらえられることに代って、ネットからの距離の遠近にもとづき(傍点は筆者による)とらえられ、それは、基本的に、ネットより離れた位置の空間から、ネットへ近づく

く特殊戦術と、ネット近くの位置の空間からの特殊戦術に分類できる。そして、後述する事由のように、ゴール型球技と異なるネット近くの位置の空間からの特殊戦術には、ボール操作者の行動とボールを操作しない（または、ボールを操作する前の攻撃者）攻撃者の行動を前提にし、「ボール操作者とこれにかかわる味方攻撃者」を視点にした行動の基本構造が異なる2つの基本的な行動形態を基礎とするマン・アヘッド系統、ボール・アヘッド系統の2系統をとらえることができる。これらの2系統は、バスケットボールの2系統と共通にとらえることもできる。

しかし、バレーボールは、バスケットボールのボール操作法や競争形式等が異なっており、たとえば、ネットによって区分された自コートのみならず、相手コートへ進入することを禁じられ、身体の一部を道具として使用し、ネット近くにボールを運ぶまで、直接的に相手の妨害を受けず、所定のボール所有回数内で、相手との対峙を打破し、味方と協応して相手コートにボールをゲットする等によって得点を試行することが必要になる競技であるので、本質的な特性や球技の攻撃の基本的な方法に基づく特定な特殊戦術等の共通化の可能なものと、バレーボール独自にとらえられるものもあるように考えられる。後者について、その1つをみるに、バレーボールは、ボールを容易にネット近くの位置の空間に運ぶことができるので、相手との対峙を打破し、味方と協応して得点を試行するときには、ネット近くの位置の空間で試行することが多く、したがって、バレーボールの特殊戦術やその体系の展開では、ネット近く、換言すると、相手コートの近くの位置の空間からのものになろう。

B. 球技における防御の戦術体系

球技の攻撃と防御は、相対的な概念としてとらえられ、一方の概念をとらえると他方の概念も明確になるという特徴を有するので⁴⁾、球技の防御の戦術体系は、攻撃の戦術体系に相対する防御の戦術体系としてとらえられる。したがって、防御の戦術体系化は、攻撃の戦術体系化の手順や方法と同様にとらえ方によって志向されよう。

1. バスケットボールの防御の特殊戦術体系図の試案

第10図は、バスケットボールの防御の特殊戦術体系図である。これは、バスケットボールの本質的な特性を原理、原則にして、攻撃側のゴールより離れた位置の空間からゴールへ近づく特殊戦術に対する防御の特殊戦術と、ゴール近くの位置の空間からの特殊戦術に対する防御の特殊戦術に分類される。そして、攻撃側のゴールよ

り離れた位置の空間からゴールへ近づく特殊戦術に対する防御の特殊戦術には、マン・アヘッド系統、ドリブル系統、ボール・アヘッド系統の3系統に対する防御行動、すなわち、攻撃の3つの基本的な行動形態に対する防御行動と各系列の特定な特殊戦術に対する防御行動がみられる。

また、攻撃側のゴールより離れた位置の空間からゴールへ近づく特殊戦術ならびにゴール近くの位置の空間からの特殊戦術に対する防御の特殊戦術には、球技の防御の基本的な方法である「防御の一般的な方法と防御の特殊な方法」⁴⁾の2つを明確にし、位置づけている。

(1) 3系統の基本的な行動形態に対する防御行動

「ボール保持者とこれにかかわる味方攻撃者」を視点にする3系統の基本的な行動形態に対する防御行動には、ボール保持者に対する個人的な防御行動、ボールを保持しない攻撃者に対する防御行動を前提にした2人の協応的な防御行動が必要になる。これは、ボール保持者に対する防御行動を中核にし、ボール保持者にかかわる攻撃者の防御行動を協応させることで、集団的スポーツとしてのバスケットボールの防御の基本的な行動形態である。この防御の基本的な行動形態のことを、「協応の防御行動」と仮称する。

(2) 3系統の各系列の特定な特殊戦術に対する防御行動

3系統の基本的な行動形態に対する防御行動は、防御の基本的な行動形態、すなわち、「協応の防御行動」であるので、3系統の各系列の特定な特殊戦術に対する防御行動は、「協応の防御行動」を基礎にし、その上に、協応の防御行動にみられる技術的な易・難、防御形式の弱・強および防御行動（協応）に参加する人数を視点にすることによって、①協応の基本的な方法、②協応の高次的な方法、③防御行動へ参加する人数の漸増的な方法がとられ、これらを基礎にして、マンツウマンディフェンス、ゾーンディフェンス、マンツウマンとゾーンによるプレスディフェンスが、防御法の種類としてとらえられる。

防御行動の強化や高度化は、個人としての特定な相手に対する防御行動より、チームの一員としての個人の防御行動へ、ついで、防御者相互の協応の防御行動へと、個人的、相互的な防御能力の拡大を志向することになる。

① 協応の基本的な方法

ここで言う、基本的な方法とは、バスケットボールで一般的に言われている防御者が、特定に割りあてられた

攻撃者に対峙を維持する方法⁹⁾のことである。したがって、協応の基本的な方法とは、ボールを保持しない攻撃者の防御者が、相手との対峙を維持しながら、ボール保持者の防御者に協応する方法のことである。これには、協応の技術的な易・難および防御形式の弱・強の視点によって、消極的な協応と積極的な協応に分類できる。

消極的な協応とは、ボールを保持しない攻撃者の防御者が、相手との対峙を維持しながら、防御者としての定位置を移動して構え、ボール保持者の防御者に協応する方法である。積極的な方法とは、ボールを保持していない攻撃者の防御者が、相手との対峙を維持しながら、定位置を移動して構えることに加えて、自分の相手の移動についても常に対峙を維持し、自分の相手にボールを与えないようにつとめ、ボール保持者の防御者に協応する方法である。積極的な方法は、さらに、ボール保持者の防御者が、定位置を移動して構え、ボールを保持しない攻撃者の防御者に協応するとともに、自分の相手のドリブルに対しても対峙を維持し、他の攻撃者の防御者に協応することによって、防御者相互の積極的な協応へ発展する。協応の基本的な方法は、協応の技術的な易・難に基づいて、消極的な協応より積極的な協応へ系統的に発展する。

② 協応の高次的な方法

高次的な協応とは、防御者が、特定な攻撃者のみに対峙しないで、攻撃者を代えて対峙したり、特定な攻撃者に2人の防御者が協力して防御する方法である。防御者が、自分の対峙する相手を代えてついたり、さらに、特定な相手に2人の防御者が防御することは、防御力の一層の強化に連なり、高度な防御形式¹⁰⁾といわれている。

③ 防御行動へ参加する人数の漸増的な方法

特定な攻撃者の防御行動より、防御行動へ参加する人数の漸増に伴って、協応の防御行動の構成が、特定な2人、3人の同一人によらないで、防御者をかえた2人、3人になる。協応の防御行動の方法を①から③までみるに、①から②は、協応の防御行動の技術的な視点に基づく系統的な展開であり、③は、①から②への展開における数量的な前提になっている。

(3) 3系統の各系列の特定な特殊戦術に対する防御行動の種類

防御の協応の防御行動に基づく、攻撃の特定な特殊戦術に対する各防御行動の種類を述べると、協応の基本的な方法のなか、消極的な協応には、フローティング、セギイングなど、積極的な方法には、スライドスルー、ファイトオーバーザスクリーン、協応の高次的な方法に

は、スイッチ、ダブルチームがあげられる。防御の特殊戦術体系には、前記の防御行動の種類を、各系列の防御として位置づけている。

2. 他の球技種目における防御の特殊戦術体系の思索

(1) 他のゴール型球技の各種目

他のゴール型球技の各種目における防御の特殊戦術体系は、他のゴール型球技の各種目の攻撃の特殊戦術体系が、基本的に、バスケットボールのそれらと共通にとらえることもでき、一般化が可能になるので、防御の特殊戦術体系も、基本的には、共通にとらえられ、一般化が可能のように考えられる。

(2) ネット型球技バレーボール

バレーボールの防御の特殊戦術体系は、バレーボールの攻撃の特殊戦術体系が、基本的に、バスケットボールのそれらと共通にとらえられる¹⁾他面、バレーボールの競争形式の特徴によって、ネット近くの位置の空間からの2系統の特殊戦術になるので、防御の特殊戦術体系は、ネット近くの位置の空間からの2系統に位置づく協応の防御行動とそれに基づく特定な特殊戦術に対する各防御行動による体系化になろう。

なお、他のゴール型球技の各種目と、ネット型球技バレーボールの防御の特殊戦術体系については、更に掘り下げた研究を進めたいと考えている。

III. ま と め

小論は、球技の戦術研究の一端として、球技の各種目の攻撃、防御の特殊戦術体系に関する研究であるが、攻撃の特殊戦術体系図については、日体大紀要、第6号に発表しているバスケットボールの戦術体系図に修正やあらたに明確になった事項を追加した。それらの主要なところは、ゴールより離れた位置の空間からゴールへ近づく特殊戦術について、集団的スポーツの構成単位と競技の単純化に基づき、「ボール操作者とこれにかかわる味方攻撃者」を視点にした基本的な行動形態とこれに基づく各系列を明確にし、これらを、マン・アヘッド系統、ドリブル系統、ボール・アヘッド系統の3系統としてとらえた。また、攻撃の特殊戦術体系に球技の攻撃の基本的な方法を位置づけた。3系統の展開では、攻撃の基本的な行動形態の順次性の考察によって、マン・アヘッド系統、ドリブル系統、ボール・アヘッド系統の順序になることを明らかにした。

他のゴール型球技の各種目、ネット型球技バレーボールの攻撃の特殊戦術体系を思索し、バスケットボールの攻撃の特殊戦術体系と一般化を志向した。

球技の各種目の防御の特殊戦術体系では、バスケットボールの防御の特殊戦術体系図に、球技の防御の基本的な方法を位置づけた。また、防御の基本的な行動形態、すなわち、協応の防御行動を体系図に位置づけ、これに基づき、協応の基本的な方法、協応の高次的な方法について系統的な展開を試み、それらの具体的な種類を、防御の特殊戦術体系図に明示した。さらに、他のゴール型球技の各種目、ネット型球技バレーボールの防御の特殊戦術体系について、バスケットボールのそれと一般化を思索した。

引用文献

- 1) 稲垣安二：球技における戦術体系の一考察，日本体育大学紀要，6，p. 14-18，昭和 51 年。
- 2) 稲垣安二他：球技に関する研究，日本体育大学紀要，8，p. 2-4，昭和 53 年。
- 3) 稲垣安二：スポーツ競争の戦術に関する一試論，日本体育大学紀要，9，p. 9，昭和 54 年。
- 4) 稲垣安二：球技の戦術に関する一考察，日本体育大学紀要，10，p. 3-8，昭和 55 年。
- 5) G. スティラー著，谷釜・稲垣訳：球技戦術論，第 1-5，新体育，6月号-12月号，新体育社，昭和 55 年。
- 6) 稲垣安二：バスケットボール，泰流社，p. 185，昭和 53 年。
- 7) 稲垣安二：大学バスケットボールの戦術に関する研究（未発表）。
- 8) クラウゼヴィッツ著，篠田英雄訳：戦争論，上，中，下巻，岩波書店，1976。
- 9) 文部省：高等学校学習指導要領解説，保健体育編，一橋出版株式会社，p. 31，59，昭和 54 年。
- 10) 日本バスケットボール協会：選手強化委員会，昭和 50 年。